

高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第11週（3月12日～3月18日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

定点医療機関当たりの報告は、第10週の13.60から、第11週は8.00と5週連続で減少し、注意報値を下回りました。県全域から報告があり、須崎、中央東で急減、中央西、高知市、幡多で減少していますが、安芸で増加し、中央西では注意報値を超えています。

また、学校等における集団発生の報告は減少し、学級閉鎖が2例報告されています。

インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザA型が169件（46.3%）、インフルエンザB型が196件（53.7%）となっています。

病原体検出情報では、第11週に高知市から搬入された検体からInfluenza virus AH3 NTが2例、高知市と須崎から搬入された検体からInfluenza virus B/Yamagataが2例検出されるなど、異なる型の流行がみられ、複数回感染することも考えられますので、引き続き注意して下さい。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2018年第6～10週）ではB（山形系統）の検出割合が最も多く61.0%、次いでAH3が28.5%、AH1pdm09が5.4%、B（ビクトリア系統）が2.2%、B（系統不明）が3.0%の順でした。

学校等における集団発生 ※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
学級閉鎖	第11週			1		1		2
	累計	8	14	97	4	6	13	142
学年閉鎖	第11週							0
	累計	17	12	21	29	28	19	126
休校	第11週							0
	累計			1		2	2	5

高知県の保健所別の定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況（2018年第11週）

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前		6週前		7週前	
	第11週		第10週		第9週		第8週		第7週		第6週		第5週		第4週	
	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況
高知県全域	8.00	-	13.60	○	23.23	○	32.27	△	45.81	△	67.67	△	66.19	△	53.65	△
安芸	7.00	-	5.50	○	15.25	○	17.25	○	19.75	○	26.00	○	26.50	○	26.75	○
中央東	5.00	-	10.09	○	17.91	○	24.73	○	34.91	△	56.36	△	54.73	△	39.45	△
高知市	9.25	-	13.88	○	22.31	○	32.38	△	49.06	△	69.31	△	71.44	△	63.81	△
中央西	12.40	○	20.40	○	36.80	△	46.40	△	56.00	△	86.40	△	73.80	△	73.20	△
須崎	6.25	-	17.75	○	29.25	○	43.50	△	48.50	△	74.00	△	61.00	△	48.75	△
幡多	8.25	-	15.63	○	24.88	○	35.50	△	59.63	△	85.88	△	89.13	△	56.50	△

注意報値：○（10以上30未満） 警報値：△（30以上）

<インフルエンザにかからないために>

- 1) 咳エチケット：咳やくしゃみを浴びないようにするためにマスクをしましょう。
- 2) 外出後の手洗い：インフルエンザウイルスを流水・石けんで除去しましょう。
- 3) 人混みや繁華街への外出を控える：特に高齢の方や基礎疾患のある方は注意しましょう。
- 4) 休養と栄養摂取：体の抵抗力を高めましょう。

<かかったらどうする>

- 1) 医療機関を受診：体調不良の時には、早めに医療機関を受診しましょう。
- 2) 休養と睡眠（水分補給）：安静にし、休養をとりましょう。
- 3) 外出をひかえる：無理して職場や学校に行かないようにしましょう。
- 4) 咳エチケット：周りの方へうつさないように、マスクをしましょう。

※小児、未成年者では、インフルエンザの罹患により、急に走り出す、部屋から飛びだそうとする、ウロウロ歩き回る等の異常行動を起こすおそれがあります。自宅療養する場合、インフルエンザと診断され治療が開始された後少なくとも2日間は小児・未成年者が一人にならないなどの配慮が必要です。

厚生労働省 インフルエンザ（総合ページ）

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/index.html

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第10週の3.13から第11週は5.50と増加しています。県全域から報告があり、中央西で急増、中央東、高知市、幡多で増加しています。

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルス5例、細菌の病原性大腸菌やカンピロバクター属菌を原因とする胃腸炎の報告6例、「胃腸炎が増加傾向」の報告があります。また、中央東福祉保健所管内からノ

ロウウイルス食中毒の発生が報告されています。

学校等欠席者・感染症情報システム※でも 19 例の報告があることから引き続き注意が必要です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、1 年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。嘔吐、下痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は 1 週間以内に回復しますが、症状消失後も 1 週間程度、長いときには 1 ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

＜予防方法＞ 感染予防の基本は手洗いです

人への感染経路は、主に経口（食品、糞便）です。食品を除けば大半が手に付着したウイルスが口に入って感染します。感染防止策は「手洗い」が基本ですので帰宅時・調理前・食事前・トイレの後に石けんを使ってよく手を洗いましょう。また、感染した人の便や吐物には、大量のウイルスが含まれていますので直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認した上で使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処理しましょう。）また、調理をする場合は、十分加熱しましょう。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関する Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○百日咳に気を付けて！

第 11 週に百日咳の発生届けが須崎福祉保健所管内から 3 例、中央東福祉保健所から 1 例ありました。2018 年にはいって報告が続いており県内で合計 51 例の報告となっています。

今年に入ってから百日咳発生届出は 10 歳前後の患者がほとんどで、その主な症状は、夜間の咳き込みと持続する咳が 9 割以上を占め比較的軽い症状です。

百日咳は、感染力が強く、咳やくしゃみなどによる飛沫感染や接触感染により感染します。そのため、比較的軽い症状の患者や感染しても症状が軽いため百日咳にかかったと気づかない大人から、重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児へ感染することも考えられることから注意して下さい。

＜予防方法＞ 飛沫感染予防には、手洗い、咳エチケットです

- ・生まれた直後から百日咳にかかる可能性があります。咳が続いている人は、百日咳の可能性も考えて、赤ちゃんに注意して接しましょう。
- ・外出時にはマスクを着用し、人混みはなるべくさげ、帰宅時には、手洗いを励行しましょう。
- ・定期予防接種があります。ワクチンは生後 3 ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

※百日咳は平成 30 年 1 月 1 日より全数把握疾患になったことから、「★全数把握感染症」に掲載しています。

○ヒトメタニューモウイルス（hMPV）感染症に気を付けて！

定点医療機関からのホット情報では、ヒトメタニューモウイルスによる感染症の報告が、第 11 週に 26 例報告されています。安芸から 1 例、中央東から 4 例、高知市から 6 例、中央西から 3 例、須崎から 1 例、幡多から 11 例と県全域からの報告があり、年齢別にみると 0 歳 3 例、1 歳 7 例、2 歳 4 例、3 歳 7 例、4 歳 2 例、5 歳 2 例、6 歳 1 例となっています。

ヒトメタニューモウイルス感染症の流行時期は 3～6 月が中心で、1 歳から 2 歳に多く、主な症状は、咳、発熱、鼻水です。重症化すると、喘鳴（ゼーゼー）、呼吸困難が見られます。

免疫を獲得しづらいため再感染を頻繁に起こすとされています。有効なワクチンはまだありませんので感染予防には、手洗い、うがい、マスクの着用、接触感染対策が大切です。

国内では、流行時期に高齢者施設などで hMPV を原因とする呼吸器感染症の集団発生が散見されていますので注意が必要です。

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

咳エチケット

- ★ 咳やくしゃみなどの呼吸器症状がある方は、必ずマスクを着用しましょう。
- ★ 咳やくしゃみをするときは、ハンカチやティッシュで口や鼻を押さえ、ウイルスの飛散を防ぎましょう。
- ★ 使用したティッシュなどは、ゴミ箱に捨てましょう。
- ★ 咳やくしゃみをした後は、石鹸を使用して、よく手を洗いましょう。

☆山や草むらでの野外活動の際にはダニに注意！

★日本紅斑熱や SFTS に注意しましょう

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは野山、草地、畑、河川敷などに広く生息しています。暖かくなるとダニの活動が活発になり、人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。屋外でキャンプ、ハイキングなどのレジャーや農作業をする場合には次のことに注意しましょう。

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

また、このたび発熱・衰弱等に加え血小板減少等の所見が見られた飼育ネコ及び飼育イヌの血液・ふん便から SFTS ウイルスが検出された事例並びに、体調不良のネコからの咬傷歴があるヒトが SFTS を発症し死亡した事例が確認されました。これらの事例は稀な事例ではありますが、イヌやネコの体液等からヒトが感染することも否定できないので、体調不良の動物に接触した後、発熱等の症状が出た時には医療機関を受診して下さい。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html

●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を 腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用 医薬品	約6時間		
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～6時間	12歳未満は 使用禁止	
	高濃度製剤 15%	防除用 医薬品	6～8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋

※市販の虫除け剤（忌避剤）は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

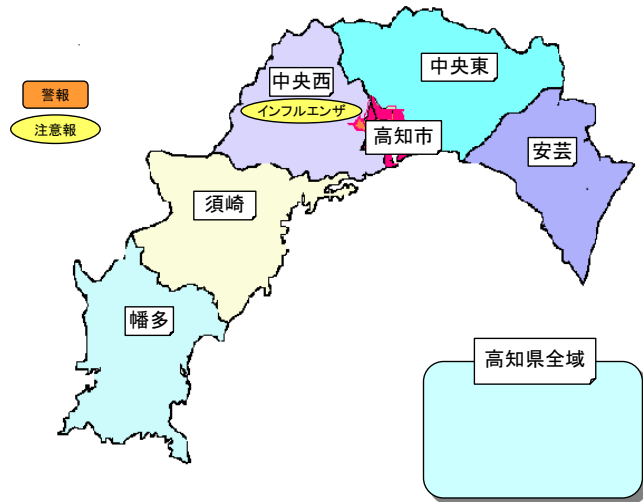
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↓：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	↓	8. 0 0	須崎、中央東で急減、県全域、中央西、高知市、幡多で減少していますが、安芸で増加し、中央西では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	↗	5. 5 0	中央西で急増、県全域、中央東、高知市、幡多で増加しています。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1. 3 3	高知市で減少していますが、中央西、安芸、須崎、中央東で急増しています。
手足口病	↗	0. 4 3	中央西で急減、高知市で減少していますが、幡多、中央東で急増、県全域で増加しています。
RS ウイルス感染症	↑	0. 4 0	県全域、安芸、中央西、中央東で急増、高知市で増加しています。

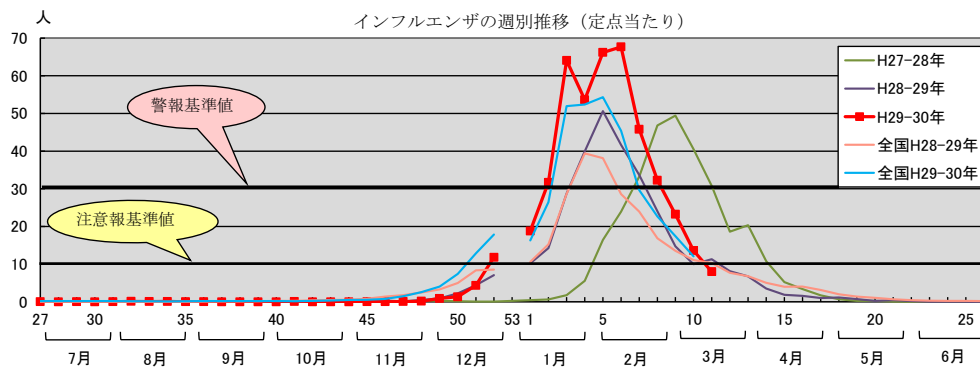
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

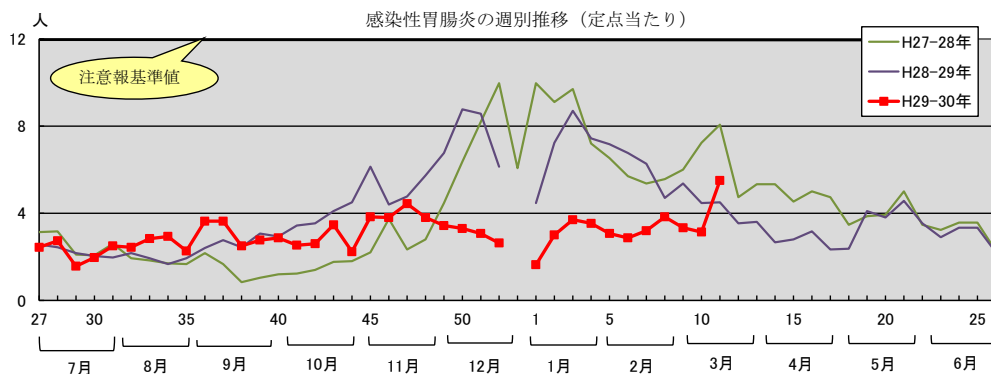
○インフルエンザ 第11週：8.00（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 8.00（前週：13.60）と減少し、注意報値を下回りました。須崎 6.25（前週：17.75）中央東 5.00（前週：10.09）で急減、中央西 12.40（前週：20.40）高知市 9.25（前週：13.88）幡多 8.25（前週：15.63）で減少していますが、安芸 7.00（前週：5.50）で増加し、中央西では注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎 第11週：5.50（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 5.50（前週：3.13）と増加しています。中央西 4.33（前週：1.33）で急増、中央東 8.86（前週：5.14）、高知市 5.91（前週：3.00）幡多 1.80（前週：1.00）で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。そのため、H28-H29年とH29-H30のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
11	インフルエンザ	39℃,下気道炎,	12	女	高知市	Influenza virus A H3 NT
11	インフルエンザ	40℃,上気道炎,	3	女	高知市	Influenza virus A H3 NT
11	インフルエンザ	38℃,下気道炎,	3	女	高知市	Influenza virus B/Yamagata
11	インフルエンザ	37℃,咳嗽,	76	女	須崎	Influenza virus B/Yamagata

前週以前

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
7	咽頭結膜熱	39℃,下痢,	11ヶ月	男	須崎	Adenovirus 2

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	1	24	80歳代 女	中央西
5類	梅 毒	1	5	20歳代 男	高知市
	百日咳	1	51	10~14歳 女	須 崎
		1		5~9歳 男	
		1		5~9歳 男	
		1		10~14歳 女	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
安 芸	田野病院小児科	hMPV 1例 (6歳女)
中央東	早明浦病院小児科	hMPV 感染症 4例 (2歳、3歳男女、5歳男：大川村で流行中)
高知市	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 1例 (5ヶ月男) ヒトメタニューモウイルス 2例 (1歳男、5歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザ 16例 (A型3例、B型13例：ワクチン接種済み3例) 溶連菌感染症 5例 胃腸炎が増加傾向
	けら小児科・アレルギー科	hMPV 気管支炎 3例 (1歳2人、3歳) アデノウイルス咽頭炎 1例 (0歳) カンピロバクター腸炎 1例 (14歳) 病原性大腸菌 O-6 腸炎 2例 (4歳、8歳)
	細木病院小児科	キャンピロバクター 3例 (3歳男、9歳男、15歳女) ノロ 2例 (2歳女、6歳女)
	三愛病院小児科	hMPV 1例 (2歳女)
	中央西	日高クリニック
須 崎	くぼたこどもクリニック	インフルエンザ B型 1例 (4歳女：高知市)
	もりはた小児科	ヒトメタニューモウイルス肺炎 1例 (3歳女) ノロウイルス胃腸炎 3例 百日咳 3例 (6歳2例、12歳1例)
幡 多	幡多けんみん病院小児科	hMPV 陽性 3例 (5ヶ月男、2歳男、3歳男)
	さたけ小児科	hMPV 5例 (7ヶ月女、10ヶ月男、2歳男、3歳男、4歳女) インフルエンザ 8例 (A型4例、B型4例)
	こいけクリニック	hMPV 肺炎 3例 (1歳男女、3歳男)

★全国情報

第9号（2月26日～3月4日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核325例

3類感染症：細菌性赤痢5例、腸管出血性大腸菌感染症17例、腸チフス1例、パラチフス1例

4類感染症：E型肝炎4例、A型肝炎10例、デング熱4例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症19例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎3例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症25例

急性脳炎6例、クリプトスポリジウム症2例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例

劇症型溶血性レンサ球菌感染症19例、後天性免疫不全症候群13例、ジアルジア症1例

侵襲性インフルエンザ菌感染症11例、侵襲性肺炎球菌感染症55例

水痘（入院例に限る）3例、梅毒93例、播種性クリプトコックス症2例、破傷風1例、

百日咳40例、麻しん2例

報告遅れ：E型肝炎2例、エキノコックス症1例、レジオネラ症9例

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症10例、急性脳炎8例、

劇症型溶血性レンサ球菌感染症9例、水痘（入院例に限る）2例、梅毒66例、

播種性クリプトコックス症1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳16例、

麻しん1例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第11週 平成30年3月12日(月)～平成30年3月18日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所							計	前週	全国(10週)	高知県(11週未累計)		全国(10週未累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/3/18				H30/1/1～H30/3/11			
インフルエンザ	インフルエンザ	28	55	148	62	25	66	384 (8.00)	653 (13.60)	59,575 (12.05)	20,401 (425.02)	1,628,197 (329.33)			
小児科	咽頭結核熱			4		1		5 (0.17)	7 (0.23)	861 (0.27)	44 (1.47)	9,269 (2.94)			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	4	24	4	2	4	40 (1.33)	40 (1.33)	8,317 (2.64)	472 (15.73)	73,960 (23.43)			
	感染性胃腸炎	9	62	65	13	7	9	165 (5.50)	94 (3.13)	15,770 (5.00)	1,104 (36.80)	153,315 (48.58)			
	水痘	3						3 (0.10)	1 (0.03)	826 (0.26)	52 (1.73)	8,848 (2.80)			
	手足口病		2	2			9	13 (0.43)	8 (0.27)	421 (0.13)	118 (3.93)	5,070 (1.61)			
	伝染性紅斑							(0.00)	1 (0.03)	180 (0.06)	10 (0.33)	2,130 (0.67)			
	突発性発疹		2	5		1		8 (0.27)	9 (0.30)	1,090 (0.35)	77 (2.57)	9,910 (3.14)			
	ヘルパンギーナ							(0.00)	(0.00)	36 (0.01)	4 (0.13)	494 (0.16)			
	流行性耳下腺炎		1					1 (0.03)	1 (0.03)	396 (0.13)	5 (0.17)	4,740 (1.50)			
	RSウイルス感染症	1	1	9	1			12 (0.40)	6 (0.20)	1,282 (0.41)	126 (4.20)	13,331 (4.22)			
眼科	急性出血性結膜炎							(0.00)	(0.00)	8 (0.01)	(0.00)	77 (0.11)			
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	(0.00)	367 (0.53)	7 (2.33)	4,320 (6.20)			
基幹	細菌性髄膜炎							()	(0.00)	6 (0.01)	1 (0.13)	91 (0.19)			
	無菌性髄膜炎							()	(0.00)	8 (0.02)	1 (0.13)	98 (0.20)			
	マイコプラズマ肺炎			1				1 (0.13)	1 (0.13)	58 (0.12)	16 (2.00)	845 (1.76)			
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	1 (0.13)	9 (0.02)	6 (0.75)	39 (0.08)			
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							()	1 (0.13)	134 (0.28)	7 (0.88)	684 (1.43)			
計 (小児科定点当たり人数)	43 (14.50)	127 (15.29)	259 (19.15)	80 (18.39)	36 (11.75)	88 (12.65)	633 (16.23)			89,344	22,451 (492.08)	1,915,418			
前週 (小児科定点当たり人数)	81 (25.25)	233 (23.05)	451 (30.58)	191 (39.13)	122 (31.75)	212 (27.48)		823 (19.15)							

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所							計	前週	全国(10週)	高知県(11週未累計)		全国(10週未累計)	
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/3/18				H30/1/1～H30/3/11			
インフルエンザ	インフルエンザ	7.00	5.00	9.25	12.40	6.25	8.25	8.00	13.60	12.05	425.02	329.33			
小児科	咽頭結核熱			0.36		0.50		0.17	0.23	0.27	1.47	2.94			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	0.57	2.18	1.33	1.00	0.80	1.33	1.33	2.64	15.73	23.43			
	感染性胃腸炎	4.50	8.86	5.91	4.33	3.50	1.80	5.50	3.13	5.00	36.80	48.58			
	水痘	1.50						0.10	0.03	0.26	1.73	2.80			
	手足口病		0.29	0.18			1.80	0.43	0.27	0.13	3.93	1.61			
	伝染性紅斑							0.00	0.03	0.06	0.33	0.67			
	突発性発疹		0.29	0.45		0.50		0.27	0.30	0.35	2.57	3.14			
	ヘルパンギーナ							0.00	0.00	0.01	0.13	0.16			
	流行性耳下腺炎		0.14					0.03	0.03	0.13	0.17	1.50			
	RSウイルス感染症	0.50	0.14	0.82	0.33			0.40	0.20	0.41	4.20	4.22			
眼科	急性出血性結膜炎							0.00	0.00	0.01	0.00	0.11			
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.00	0.53	2.33	6.20			
基幹	細菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.01	0.13	0.19			
	無菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.02	0.13	0.20			
	マイコプラズマ肺炎			0.20				0.13	0.13	0.12	2.00	1.76			
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							0.00	0.13	0.02	0.75	0.08			
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							0.00	0.13	0.28	0.88	1.43			
計 (小児科定点当たり人数)	14.50	15.29	19.15	18.39	11.75	12.65	16.23				492.08				
前週 (小児科定点当たり人数)	25.25	23.05	30.58	39.13	31.75	27.48		19.15							

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）

〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）

TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2018年3月19日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。